

令和2年度 出資団体評価シート

1 基本情報

団体名	(株)札幌振興公社	所管課	経済観光局観光・MICE推進課
基本財産	476,752千円	記入者	担当 澤田 電話 011-211-2376
設立年月日	昭和32年(1957年) 7月12日	本市出資額	391,752千円 (出資割合 82.2%)
設立・出資目的	公共用地の先行取得事業、不動産賃貸事業、児童遊園施設等の経営を行うことを目的に設立された。その後、平成10年12月に株式会社札幌交通開発公社を吸収合併し、藻岩山ロープウェイ等の事業を引き継いだ。 当初、公有地の先行取得を主な目的としていたが、現在は、不動産の賃貸、駐車場等の公益的事業の管理運営、観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図ることを目的としている。	出資年月日	昭和32年(1957年) 8月31日
沿革	昭和32年 会社設立 昭和60年 藻岩山ロープウェイ営業開始(※) 平成8年 大倉山ジャンプ競技場等の管理開始 平成10年 (株)札幌交通開発公社と合併 平成23年 藻岩山ロープウェイリニューアル (※印は札幌交通開発公社の事業。)	代表者	代表取締役社長(常勤) 板垣 昭彦(市OB)
主な出資者	① 札幌市 (82.2%) ② (株)北洋銀行 (8.4%) ③ (株)北海道銀行 (4.2%) ④ 北海道瓦斯(株) (2.1%) ⑤ (株)さっぽろテレビ塔 (1.9%) ⑥ 札幌商工会議所 (1.2%)	団体所在地	〒060-0012 札幌市中央区北12条西23丁目2番5号SDC北12条ビル 電話 011-616-1601

2 実施事業 (詳細については事業評価シート参照)

(1) [No.] [主要事業名] (該当ページ)	
[設立・出資目的と当該事業との具体的な関連性]	
① ジャンプ競技場等の管理運営 (5ページ)	② 札幌駅周辺自転車等駐車場管理 (6ページ)
ジャンプ競技場の指定管理等を通じて、ジャンプ競技に対する市民の理解を深め、普及振興及び競技力の向上を図る。また、オリンピックミュージアムのリニューアル及びオリンピックミュージアムネットワークへの加盟を契機として、オリンピックの普及啓発及び冬季オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図る。	指定管理者として札幌駅周辺の駐輪場の適切かつ円滑な管理を行う。
③ 不動産賃貸・駐車場事業等 (7ページ)	④ 藻岩山観光事業 (8ページ)
不動産賃貸については、札幌市の要請に基づいて建設したビル等の経営や公社所有地の有効活用を通じて、都市機能の向上に寄与する。直営駐車場について、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置しており、パークアンドライドを目的とした駐車場を中心に管理運営し、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことに寄与する。	札幌の観光を代表する藻岩山は、その自然を生かした観光資源として、保全と活用によって魅力アップを一層促進し、市民には誇りと、観光客には喜びや、驚きを与える観光名所として重要な役割を担っていく。
(2) 総支出に占める事業支出割合	81.4% (主要事業支出合計 2,138,247千円 ÷ 総支出 2,626,173千円)
(3) 主要事業の有効性 (出資・設立目的に対して事業効果は、十分出ているか)	
評価	<input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない
理由	札幌振興公社が行う各事業は、出資・設立目的に寄与し、一定の効果が出ているものと考えているが、今後、事業効果をより一層高めていく必要があると認識している。
(4) 主要事業の質・量 (出資・設立目的の達成のために、必要十分な事業が実施されているか)	
評価	<input checked="" type="checkbox"/> 実施されている <input type="checkbox"/> 一部見直す必要がある <input type="checkbox"/> 実施されていない
理由	札幌振興公社は、出資・設立目的を達成するために必要な事業を実施していると認識しているが、今後も内容の工夫を求めている。

3 団体職員・構成員等

令和2年4月1日現在(単位:人)

	本市OB	本市派遣	プロパー	その他	総数	プロパー職員の年齢構成		役員任期		
役員	常勤取締役	1	0	1	11	10歳代	0	40歳代	14	
	常勤監査役	0	0	0		20歳代	4	50歳代	9	
	非常勤取締役			7		30歳代	17	60歳代	0	
	非常勤監査役			2		平均年齢	40.8	歳		
職員	常勤管理職	4	0	7	174			代表権のある役員 の就任年月		
	常勤一般職	2	0	37		63			取締役	
	非常勤職員			57					H30.6	
								職員総数の推移(人)		
								H30.4.1時点		
								169		
								H31.4.1時点		
								172		

4 財政状況

※数字は団体決算ベース（金額単位：千円）

区分		H30年度決算	R1年度決算	(前年比)	
財務状況	経常収入内訳	経常収入 (a+f)	2,718,160	2,648,405 (100.0%) (▲ 69,755)	
	損益計算書	営業	売上高 (a)	2,681,248	2,594,683 (▲ 86,565)
			営業費用 (b)	2,602,985	2,626,173 (+23,188)
			うち販売費・一般管理費 (c)	2,529,522	2,570,390 (97.1%) (+40,868)
			うち人件費 (d)	677,078	715,688 (27.0%) (+38,610)
			営業利益 (e)	78,263	▲ 31,490 (▲ 109,753)
	営業外	営業外収益 (f)	36,912	53,722 (+16,810)	
		当期純利益 (g)	34,456	▲ 38,431 (▲ 72,887)	
	貸借対照表	資産 (h)	13,509,098	13,127,660 (▲ 381,438)	
		流動資産 (i)	1,067,013	836,867 (▲ 230,146)	
固定資産 (j)		12,442,085	12,290,793 (▲ 151,292)		
負債 (k)		10,299,821	9,962,792 (▲ 337,029)		
流動負債 (l)		664,861	719,548 (+54,687)		
固定負債 (m)		9,634,960	9,243,244 (▲ 391,716)		
純資産 (n)		3,209,277	3,164,868 (▲ 44,409)		
資本金 (o)		476,752	476,752 (0)		
	借入金残高 (p)	2,670,742	2,460,066 (▲ 210,676)		

R1年度決算の概要

区分	当期収入の増減、収支の状況、資産・負債の大幅な変動の要因等
a ~ d	新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光部門を中心に大きな影響を受け売上高は減少した。また、創世スクエアの不動産取得税の支払いによる費用の増加や、大倉山のリニューアルに向けたレストランスタッフの増員等により人件費が増加した。
e ~ g	上記の要因により、昨年に比べ営業利益、当期純利益は減少したが、不動産部門において入居テナントの早期退店に伴う精算金の入金等により営業外収益は増加している。
h ~ m	大倉山リニューアル工事に伴い建設仮勘定を計上したが、固定資産の減価償却が進んでおり、また借入の償還も進んでいるため、資産と負債が減少している。

※詳細は、別添の貸借対照表、損益計算書を参照。

5 本市の財政的関与

※数字は札幌市決算ベース（金額単位：千円）

区分	H30年度決算	R1年度決算	(前年比)
市補助金・交付金・負担金	24,000	41,850	(+17,850)
市委託料	189,883	198,317	(+8,434)
市業務委託料	5,349	5,582	(+233)
うち随意契約	868	884	(+16)
市指定管理費	184,534	192,735	(+8,201)
うち非公募	0	0	(0)
(参考) 再委託額	109,204	108,938	(▲ 266)
うち市業務委託分	0	0	(0)
再委託率	(62.1%)	(59.3%)	(▲ 2.8%)
市貸付金	0	0	(0)
市貸付金残高	0	0	(0)
損失補償等限度額	0	0	(0)
損失補償契約等に係る債務残高	0	0	(0)
(参考) 市施設利用料金収入	95,810	90,876	(▲ 4,934)
うち非公募	0	0	(0)

6 財務指標に基づく評価

(金額単位：千円)

項目		H30年度	R1年度	(前年比)	評価基準	備考	
(1)健全性	剰余金(n-o)	2,732,525	2,688,116	(▲44,409)	前年比較増	正味財産-基本財産	
	自己資本比率(n÷h)	23.8%	24.1%	(+0.4%)	≥50%	正味財産÷資産	
	流動比率(i÷l)	160.5%	116.3%	(▲44.2%)	≥150%	流動資産÷流動負債	
	固定比率(j÷n)	387.7%	388.4%	(+0.7%)	≤100%	固定資産÷正味財産	
	借入金依存度(p÷h)	19.8%	18.7%	(▲1.0%)	前年比較減	借入金残高÷資産	
(2)生産性	職員一人当り経常収益	16,084千円	15,398千円	(▲686千円)	前年比較増	経常収益÷職員総数	
	人件費率(経常収益比)(d÷a)	25.3%	27.6%	(+2.3%)	前年比較減	人件費÷経常収益	
	職員一人当り管理費	14,968千円	14,944千円	(▲23千円)	前年比較減	管理費等÷職員総数	
	管理費率(経常収益比)(c÷a)	94.3%	99.1%	(+4.7%)	前年比較減	管理費等÷経常収益	
(3)自立性	市依存度(収入)	0.9%	1.6%	(+0.7%)	前年比較減	市収入(注1)÷経常収益	
	市財政的関与割合(収入)	11.4%	12.5%	(+1.1%)	前年比較減	市収入(注2)÷経常収益	
健全性の評価		<input type="checkbox"/> 非常に高い <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 概ね健全 <input checked="" type="checkbox"/> やや低い <input type="checkbox"/> 低い					
理由	自己資本比率は改善傾向にあるものの、未だ評価基準は下回っているため、健全性評価はやや低い。新型コロナウイルスの影響で経常収益が減少したことにより、人件費率、管理費率、市依存度が前年度より増加していることから、生産性、自立性ともにやや低いと評価する。						

(注1)市収入＝市補助金・交付金＋市業務委託料(随意契約分)＋市指定管理費(非公募分)＋市施設利用料金収入(非公募分)

(注2)市収入＝市補助金・交付金＋市業務委託料＋市指定管理費＋市施設利用料金収入

7 「札幌市出資団体の在り方に関する基本方針」に基づく具体的な行動計画の進捗評価

ここでは、具体的な行動計画(※1)で示した取組目標について、年度ごとの指標(※2)の達成状況とその評価を行う。

※1詳細については具体的な行動計画(別冊子)を参照

※2指標の実績値は各年度末時点のもの

(1)出資・出捐

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○出資の見直し							
①	市出資金	目標	-	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円
		実績	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円	391,752千円
②	出資比率引き下げ検討状況	目標	-	-	-	-	出資比率引き下げ検討
		実績	-	-	-	-	検討実施
評価	出資比率の引き下げにあたっては、当該団体の財務への影響や他の出資者の動向などの課題があり、これらの課題についても勘案しつつ、当該団体の経営状況を見ながら引き続き検討していく。						

(2)人的関与

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○適切な人的関与の継続							
①	市職員派遣職員数	目標	-	0	0	0	0
		実績	0	0	0	0	0
②	役員の就任数(取締役)	目標	-	1	1	1	1
		実績	2	2	2	2	2
評価	本市職員の役員就任を最小限の人的関与としており、引き続き継続する。						

(3) 団体の活用

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○藻岩山、大倉山の利用者増							
①	藻岩山施設利用者数 (ロープウェイ、観光道路)	目標	-	677千人	677千人	677千人	677千人
		実績	628千人	774千人	906千人	867千人	808千人
②	大倉山施設利用者数(フット)	目標	-	532千人	537千人	547千人	552千人
		実績	507千人	475千人	510千人	480千人	476千人
評価	藻岩山は新型コロナウイルスの影響により、昨年に比べ利用者数が減少したものの、本市が認定を受けた「日本新三大夜景都市」効果が表れていると思われることから、今後も目標を達成するよう努めること。大倉山は利用者数が減少し目標値を下回っており、更なる魅力向上を図り利用者の増加を目指すこと。						

(4) 更なる経営の安定化

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○業務効率化による経費の削減							
①	人件費	目標	-	637,255千円	608,321千円	606,034千円	606,466千円
		実績	608,851千円	636,090千円	652,124千円	677,078千円	715,688千円
②	一般管理費(人件費・減価償却費を除く。)	目標	-	1,282,350千円	1,357,581千円	1,389,375千円	1,103,791千円
		実績	1,146,728千円	1,252,795千円	1,298,144千円	1,306,649千円	1,288,439千円
評価	施設のリニューアルに伴い人件費が前年度より増加しており、今後は効率的な人員配置を行うよう留意すること。一般管理費も、同様の理由で目標値を上回ったが、昨年より減少しており、引き続き経費削減に努めること。						

(5) 団体統制

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○社員の資質向上							
①	階層・職種別研修実施	目標	-	7回	7回	7回	7回
		実績	7回	4回	3回	6回	8回
評価	研修実施回数が前年度から増加し目標値を上回っていることから、引き続き社員の資質及び能力の向上を図るための各種研修を効果的に実施し、目標値を達成するよう努めること。						

(6) 札幌市の施策との連動

○取組目標		計画策定時	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度
No.	指標名						
○障がいのある方の自立支援							
①	障がい者就労支援施設からの物品調達や業務委託件数	目標	-	7件	8件	8件	8件
		実績	7件	6件	6件	3件	4件
②	障がいのある方の雇用人数	目標	-	2人	3人	3人	3人
		実績	1人	1人	2人	2人	2人
評価	システム化に伴う委託業務の減少により障害者就労施設からの物品調達や業務委託が減少しているが、目標の達成に向けた努力を続けること。また、事業の性質による採用活動難航等の事情はあるが、引き続き採用活動に注力し、法定雇用数を確保できるよう努めること。						

8 情報公開等の状況

ホームページ公開情報	
ホームページアドレス	http://www.sapporo-dc.co.jp/
Eメールアドレス	なし
【経営状況等】	<input checked="" type="checkbox"/> 定款 <input checked="" type="checkbox"/> 役員名簿 <input type="checkbox"/> 団体機構図 <input type="checkbox"/> 事業計画書 <input type="checkbox"/> 予算書 <input type="checkbox"/> 事業報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 決算書 <input type="checkbox"/> 中長期的な経営計画
【事業情報等】	<input checked="" type="checkbox"/> 実施事業(イベント)情報 <input checked="" type="checkbox"/> 管理施設情報 <input type="checkbox"/> その他()
ホームページ以外の情報媒体	
広報誌・冊子の発行：パンフレット	

※特記ない限り、本評価シート情報は令和2年7月1日現在のものです。

事業評価 (1) ジャンプ競技場等の管理運営

1. 事業概要	事業所管課： スポーツ局スポーツ部施設課	担当： 依岡	電話： 011-211-3045
(1)事業内容	①札幌市大倉山ジャンプ競技場 ②札幌市宮の森ジャンプ競技場 ③札幌市荒井山ジャンツェ ④札幌オリンピックミュージアム ・施設、設備の維持管理 ・施設の利用供与 ・大型映像車貸出 ジャンプ大会、プロ野球公式戦、防災訓練、YOSAKOIソーラン祭り等 ・イベントの実施(自主事業) 大倉山ウィンターフェスタの実施		市指定管理費(公券) 160,100
(2)事業目的	観光・スポーツ施設の管理運営等を通じて都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	①、②、③：平成8年(1996年)4月 ④：平成12年(2000年)4月 ※平成18年からは指定管理者として業務を継続		

2. 実施結果

(1)事業収支(単位：千円)	項目	H30年度	R1年度	(前年比)	
	収入(経常収益比)		229,777 (8.5 %)	231,551 (8.7 %)	
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	156,654	160,100	(+3,446)	
	市施設利用料金収入	59,154	54,693	(▲ 4,461)	
	自主事業収入(補助金除く)	2,847	4,661	(+1,814)	
	その他収入	11,122	12,097	(+975)	
	費用(支出)	230,931	235,843	(+4,912)	
	事業費	202,333	206,022	(+3,689)	
	管理費等	28,598	29,821	(+1,223)	
	収支差	▲ 1,154	▲ 4,292	(▲ 3,138)	
	収支比率	99.50%	98.18%	(▲ 1.32%)	
(2)活動指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	ジャンプ練習促進の為、ジャンプ台無料開放(7/1~10/20の金土日)	※工事のため、使用不可。	実施予定	4日間	5日間
②	ウィンターフェスタの実施	実施	実施予定	実施(2月16日)	実施予定
③	オリパラ教育の実施	実施(45校)	実施予定(60校)	実施(61校)	実施予定
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	リフト利用者数(延べ人数)	479,903	536,000	475,765	526,000
②	ミュージアム来場者数	127,085	127,100	114,701	114,800
③	ミュージアム来場者アンケート総合満足度	95%	95%	95%	95%
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない 札幌オリンピックミュージアムについては新型コロナウィルス感染症の影響により1月以降は利用者が大きく減少しているが、12月までは大倉山全体の魅力を発信することにより昨年並みの来場者数であった。今後も施設の魅力や、大倉山全体の魅力を上げる施策を実施し、ジャンプ競技やウィンタースポーツの普及振興に寄与していただきたい。 また、オリンピズムの普及という観点でも、市内の小学校61校へのオリパラ教育を実施したほか、オリンピック・パラリンピックの招致気運醸成を行っており、今後とも、継続して取り組んでいただきたい。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 施設利用料金収入の減少等により赤字になっているが、新たな顧客の開拓や、大倉山ジャンプ競技場の魅力を上げることにより、来場者数の増加を図り、安定した施設の管理運営に取り組んでいただきたい。

事業評価 (2) 札幌駅周辺自転車等駐輪場管理

1. 事業概要	事業所管課： 建設局総務部自転車対策担当課	担当： 中居	電話： 011-211-2456
(1)事業内容	各種駐輪場の管理運営、駐輪場料金の収受		市指定管理費(公費) 21,076
(2)事業目的	駐輪場の適切かつ円滑な管理を通じた都市機能の維持向上を図るため		
(3)事業開始	平成19年度		

2. 実施結果

(1) 事業収支 (単位 千円)	項目	H30年度	R1年度	(前年比)	
	収入 (経常収益比)		56,180 (2.1 %)	62,513 (2.4 %)	(+6,333)
	市補助金・交付金・負担金	0	0	(0)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	14,210	21,076	(+6,866)	
	市施設利用料金収入	36,656	36,183	(▲ 473)	
	自主事業収入 (補助金除く)	5,302	5,254	(▲ 48)	
	その他収入	12	0	(▲ 12)	
	費用 (支出)	57,912	60,214	(+2,302)	
	事業費	57,912	60,214	(+2,302)	
	管理費等	0	0	(0)	
	収支差	▲ 1,732	2,299	(+4,031)	
	収支比率	97.01%	103.82%	(+6.81%)	
(2)活動指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	職員の意識統制による親切で丁寧なサービスの徹底	実施済	継続実施	実施済	継続実施
②	自転車等管理システムによる円滑で正確な管理体制の実践	実施済	継続実施	実施済	継続実施
③	定期券販売開始日等の繁忙期における人員増員 (案内・整理・誘導対応)	実施済	継続実施	実施済	継続実施
④	パンフレット・ポスター・WEBを利用した周知徹底	実施済	継続実施	実施済	継続実施
⑤					
⑥					
(3)成果指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	有料駐輪場利用者数 (定期利用)	7,289	7,300	6,664	7,000
②	有料駐輪場利用者数 (一時利用)	116,488	120,000	130,266	131,000
③	有料駐輪場利用料金収入 (千円)	36,655	36,621	36,183	36,802
④	利用者満足調査 (※)	90%	90%	100%	100%
※ホームページでのアンケート調査で運営管理について「良い」・「普通」・「悪い」の内「普通」以上と回答した割合					

3. 所管局による評価

(1) 事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない 職員の意識統制による親切で丁寧なサービスの徹底のため、研修を実施し、繁忙期における案内等のため、人員を増員し (計517時間)、駐輪場の周知のため、パンフレット・ポスターの配布 (前年度実績を超える300枚) を行うなど、サービスの向上を図っている。それら取組の結果、利用者の満足度や一時利用の件数がR1年度目標値を超えており、おおむね駐輪場が適切に管理され、市民の生活環境の保全と都市機能の維持向上に効果が表れていると考えられるが、定期利用の件数は前年実績を下回っているため、引き続き周知活動を行う等、利用件数増加に向けた対策を講じること。
(2) 収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 全体の収支が前年度収支を上回ったことは評価できるが、利用料金収入は目標及び前年実績を下回っており、支出事業費も前年度実績を超えていることから、営業活動及びコスト削減などの対策を講じること。

事業評価 (3) 不動産賃貸・駐車場事業等

1. 事業概要	事業所管課： 経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課	担当： 澤田	電話： 011-211-2376
(1)事業内容	①建物賃貸事業 SDC北12条ビル、宮の沢ターミナルビル、白石ガーデンプレイス、セレスタ札幌、大谷地アドバンシービル（セカンドストリート等）、幌北総合センターすすきの市場、山の手店舗（インポート・プラス）新札幌薬局（クリオネ薬局）、さっぽろ創世スクエア北14条複合店舗（オートボックス）、旧小熊邸（ドリーバーデン）など ②月極・時間貸し駐車場の運営 二十四軒、新札幌、大谷地、琴似北14条、大谷地東、宮の沢（全てパークアンドライド実施）		
(2)事業目的	直営駐車場においては、地下鉄駅等の交通機関の要衝に位置することから、パークアンドライドを目的とした駐車場が多い。従って、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を促すことを目的とする。		
(3)事業開始	平成10年度		

2. 実施結果

(1)事業収支 (単位 千円)	項目	H30年度	R1年度	(前年比)	
	収入 (経常収益比)		1,570,092	1,588,041	(+17,949)
	(57.8 %)	(60.0 %)			
	市補助金・交付金・負担金	24,000	0	(▲ 24,000)	
	市業務委託料	0	0	(0)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入（補助金除く）	1,526,481	1,553,070	(+26,589)	
	その他収入	19,611	34,971	(+15,360)	
	費用（支出）	1,231,609	1,229,413	(▲ 2,196)	
	事業費	1,231,609	1,229,413	(▲ 2,196)	
	管理費等	0	0	(0)	
	収支差	338,483	358,628	(+20,145)	
	収支比率	127.48%	129.17%	(+1.69%)	
(2)活動指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	テナントに向けた不動産仲介会社との連携	実施済	継続実施	実施済	継続実施
②	ホームページ等での駐車場案内	実施済	継続実施	実施済	継続実施
③					
④					
⑤					
⑥					
(3)成果指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	直営駐車場（満車達成率）	68%	80%	65%	80%
②	賃貸ビル等（稼働率）	93%	100%	99%	100%
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない テナント募集に向けた不動産仲介業者との連携の結果、建物賃貸事業の稼働率は昨年度より増加している。一方で、駐車場事業については満車達成率が低下していることから、都心の渋滞緩和や公共交通機関の利用促進を図るやめに、更なる利用促進の取組が求められる。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 安定的かつ継続的な収入を確保するために、ホームページ等での駐車場案内を充実させるとともに、経費削減に努めながら、不動産及び駐車場の利用拡大を促進させる必要がある。

事業評価 (4) 藻岩山観光事業

1. 事業概要

事業所管課:	経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課	担当:	澤田・新谷	電話:	011-211-2376
--------	---------------------------	-----	-------	-----	--------------

(1)事業内容	①藻岩山ロープウェイの経営 ②藻岩山観光道路の経営 ③藻岩山頂展望台の経営 ④藻岩山山頂レストラン「THE JEWELS」の経営 ⑤藻岩山スキー場ロッジの経営	市補助金 41,850 市委託料(随意契約) 804
(2)事業目的	札幌の観光を代表する藻岩山は、その自然を生かした観光資源として、保全と活用によって魅力アップを一層促進し、市民には誇りと、観光客には喜びや、驚きを与える観光名所として重要な役割を担っていくことが求められている。従って、市民の藻岩山観光に対する再認識のための広告・営業活動・観光客誘致のための旅行代理店等に対する営業活動等を通して、更なる利用を促進させる。	
(3)事業開始	昭和60年(1985年) 8月	

2. 実施結果

項目		H30年度	R1年度	(前年比)	
(1)事業収支 (単位: 千円)	収入(経常収益比)	595,457 (21.9 %)	594,799 (22.5 %)	▲ 658	
	市補助金・交付金・負担金	0	41,850	(+41,850)	
	市業務委託料	804	804	(0)	
	市指定管理費	0	0	(0)	
	市施設利用料金収入	0	0	(0)	
	自主事業収入(補助金除く)	587,920	545,364	▲ 42,556	
	その他収入	6,733	6,781	(+48)	
	費用(支出)	568,361	612,777	(+44,416)	
	事業費	568,361	612,777	(+44,416)	
	管理費等	0	0	(0)	
収支差	27,096	▲ 17,978	▲ 45,074		
収支比率	104.77%	97.07%	▲ 7.70%		
(2)活動指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	イベント回数	107回	110回	94回	実施未定
②	札幌市内小学校生徒等へのイベント告知(チラシ配布)	実施済	実施予定	実施済	実施未定
③	索道技術研修	16名	—	17人	0人
④					※すべてコロナの影響による
⑤					
⑥					
(3)成果指標		H30年度実績	R1年度目標	R1年度実績	R2年度目標
①	藻岩山施設利用者数	867千人	972千人	808千人	940千人
②	市民割引利用者数	27,220人	31,000人	20,430人	27,000人
③					
④					
⑤					
⑥					

3. 所管局による評価

(1)事業の実施結果の有効性	事業目的に対して事業の効果は <input type="checkbox"/> 十分出ている <input checked="" type="checkbox"/> 高める余地あり <input type="checkbox"/> 出していない 藻岩山はコロナの影響を大きく受けており、日本新三大夜景都市としての魅力を活かして、利用者数の早期回復を図る必要がある。 また、令和元年8月の事故の反省に立ち、サービスの向上や安全運行の強化に取り組むとともに、藻岩山全体の魅力向上を図ることにより、市民や観光客からの信頼回復に努めること。
(2)収支状況	当該事業の収支状況は <input type="checkbox"/> 良好 <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの余地あり <input type="checkbox"/> 要改善 新型コロナウイルスの影響もあり収支状況は悪化傾向。今後も安定的な事業運営を目指す必要があり、道内外の観光客はもとより市民に対しても情報発信を行うことにより、利用率の向上を図り、収益の維持・向上に努める必要がある。

1 貸借対照表

令和2年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 及 び 純 資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
I 流動資産	836,866,965	I 流動負債	719,547,896
現金・預金	612,620,052	買掛金	514,048
売掛金	883,013	一年内返済予定長期借入金	180,412,000
商品	1,635,179	未払金	133,757,907
材料品	1,718,106	未払費用	3,082,358
貯蔵品	14,030,400	未払消費税等	80,851,300
前払費用	27,508,686	未払法人税等	5,244,200
未収金	154,985,632	前受金	88,257,736
立替金	4,073,727	預り金	12,326,314
仮払金	19,150,821	仮受金	3,969,401
未収法人税等	261,349	リース債務	211,132,632
II 固定資産	12,290,792,874	II 固定負債	9,243,243,817
1 有形固定資産	(11,853,582,070)	社債	900,000,000
建物	4,489,786,790	長期借入金	2,279,654,000
建物附属設備	814,265,180	退職給付引当金	79,056,869
構築物	445,917,776	長期未払金	500,148
機械及び装置	713,222,075	預り敷金	933,481,266
器具備品	72,871,244	預り保証金	180,068,480
車両	3,244,142	リース債務	4,870,483,054
リース資産	4,729,259,928		
土地	338,936,335	負債合計	9,962,791,713
建設仮勘定	246,078,600	株主資本	3,164,868,126
2 無形固定資産	(14,581,461)	1 資本金	476,752,000
電話加入権	2,475,662	2 資本剰余金	85,848,000
商標権	2,169,495	資本準備金	85,848,000
ソフトウェア	9,936,304	3 利益剰余金	2,602,268,126
3 投資その他の資産	(422,629,343)	1)利益準備金	42,330,000
差入保証金	379,205,436	2)その他の利益剰余金	2,559,938,126
預託金	179,390	固定資産圧縮積立金	262,559,668
投資有価証券	8,001,000	別途積立金	2,005,000,000
保険積立金	142,800	繰越利益剰余金	292,378,458
長期前払費用	35,100,717		
		純資産合計	3,164,868,126
資産合計	13,127,659,839	負債及び純資産合計	13,127,659,839

2 損益計算書

自平成31年 4月 1日
至令和 2年 3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
I 売 上 高		2,594,682,960
地代及び家賃収入	989,505,723	
駐車場収入	527,715,745	
受託料収入	199,387,394	
索道収入	521,661,400	
利用料金収入	115,406,894	
その他売上高	241,005,804	
II 売上原価		55,782,685
売上総利益（△は損失）		2,538,900,275
III 販売費及び一般管理費		2,570,389,848
営業利益（△は損失）		△ 31,489,573
IV 営業外収益		53,722,006
受取利息	10,029	
受取配当金	194,000	
その他営業外収益	53,517,977	
V 営業外費用		59,162,601
支払利息	45,290,889	
社債利息	3,012,167	
その他営業外費用	10,859,545	
経常利益（△は損失）		△ 36,930,168
VI 特別利益		41,851,723
固定資産売却益	2,223	
受取補助金	41,849,500	
VII 特別損失		42,022,177
固定資産除却損	172,677	
固定資産圧縮損	41,849,500	
税引前当期純利益（△は損失）		△ 37,100,622
法人税、住民税及び事業税		1,330,000
当期純利益（△は損失）		△ 38,430,622